

## 【令和2年度第1回柏市スポーツ推進審議会資料】

## 市民スポーツ実態調査結果概要及び結果分析

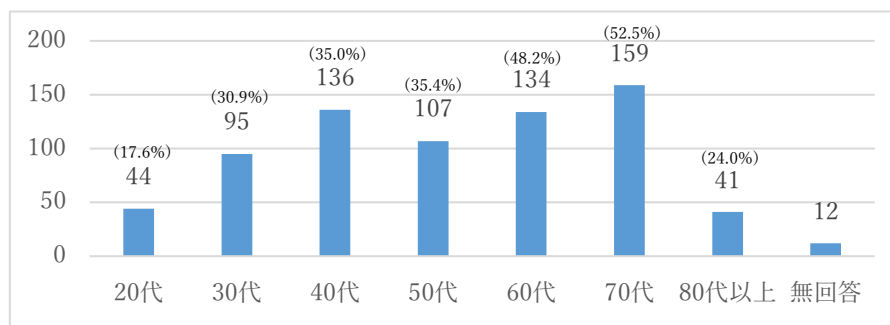
## 1 柏市のスポーツを取り巻く現状と課題

これまで、本市では、市民のスポーツに関する実態を把握するためのアンケート調査を行ってまいりました。後述のデータは、令和2年2月に実施した調査を基本に、平成18年の計画策定時の調査及び平成22年の計画見直し時、平成27年2月の計画改定時のアンケート結果を比較し、「する」「みる」「ささえる」というスポーツへの関わり方である3つの視点から分析するとともに、スポーツの実践に欠かせない「場所」や「情報」としてスポーツ政策として希求されている事項について整理したものです。

図表1-1 アンケート概要

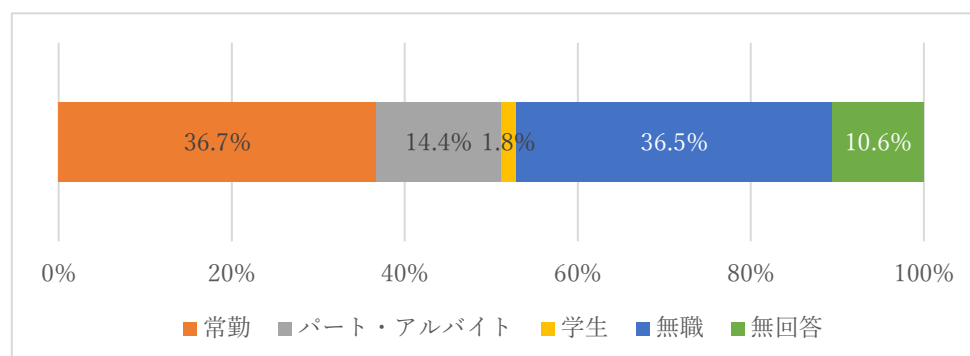
	平成18年度	平成22年度	平成26年度	令和元年度
対象者	20歳以上の市民			
抽出	住民基本台帳から無作為抽出			
発送数	1,000人	1,000人	2,000人	2,000人
回答数	396人	361人	771人	728人
回答率	39.6%	36.1%	38.6%	36.4%
実施率	33.6%	43.4%	40.1%	47.3%

図表1-2 回答者の年齢層



※括弧書きの数値は年代別の回答率です。

図表1-3 回答者の職業層



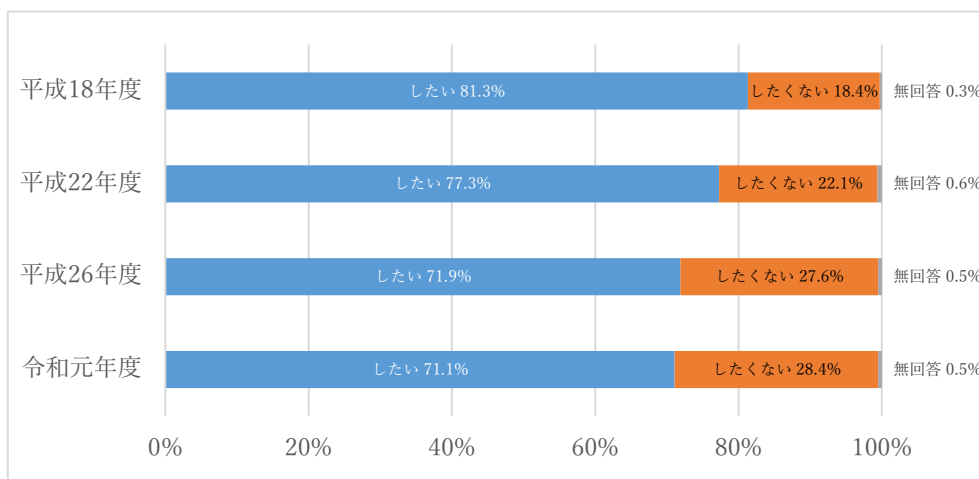
## 2 「する」スポーツの現状と課題

### (1) 「する」スポーツの現状

#### ① スポーツへの意欲

平成18年度調査では、「スポーツをしたい」と回答した人の割合が81.3%となっていたが、調査毎に割合が漸減しており、令和元年度では71.1%となっている。

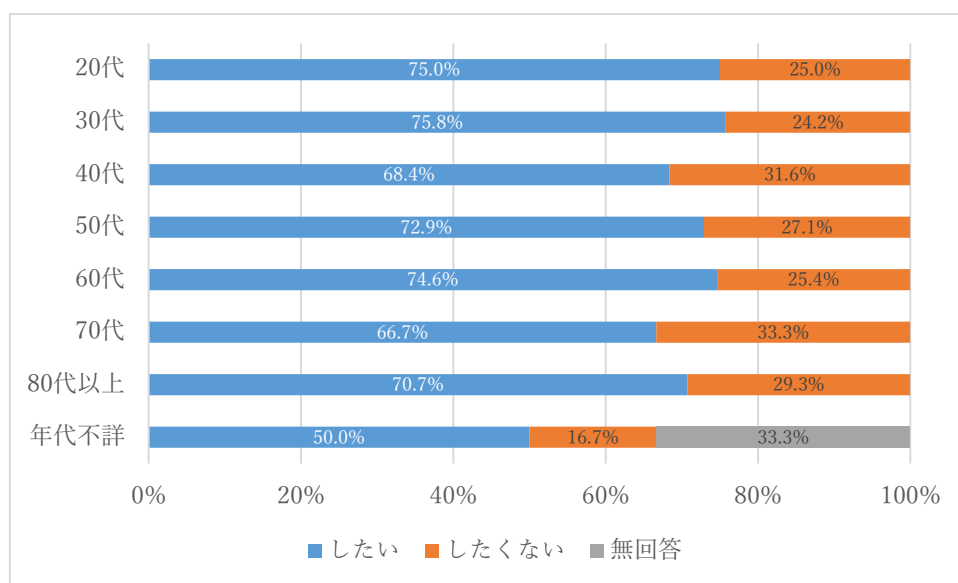
図表2-1 スポーツへの意欲  
(平成18, 22, 26, 令和元年度調査)



#### ② スポーツへの意欲（年代別）

年代別のスポーツへの意欲としては、すべての年代で70~75%程度が「スポーツをしたい」という結果となっている。

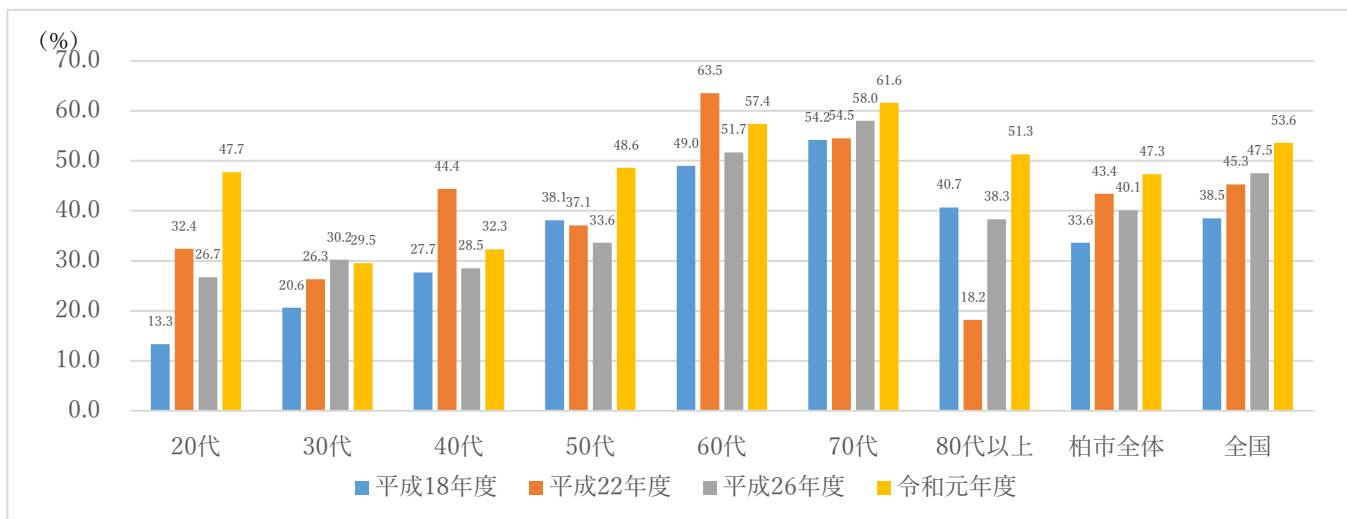
図表2-2 スポーツへの意欲（年代別）  
(令和元年度調査)



### ③週1回以上のスポーツ実施率

令和元年度調査における柏市全体での週1回以上のスポーツ実施率は47.3%とこれまでの調査のうち最も高い値となったが、全国平均の53.6%（令和元年度）は下回っており、また、本計画の数値目標となっている65%以上に対しては低い水準が続いている。

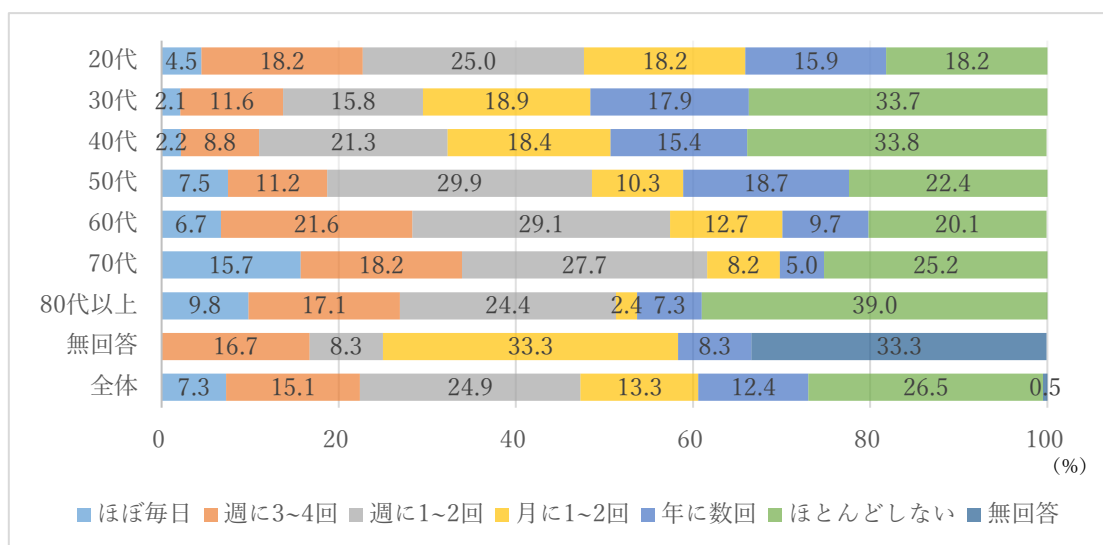
図表2-3 週1回以上のスポーツ実施率  
(平成18, 22, 26, 令和元年度調査)



### ④年代別スポーツ実施状況

令和元年度調査における年代別のスポーツ実施状況では、20歳代が最も高いが、週1回以上のスポーツ実施状況では、60歳代、70歳代が高くなる。また、子育て世代である30歳代、40歳代のスポーツ実施率は低くなっている。

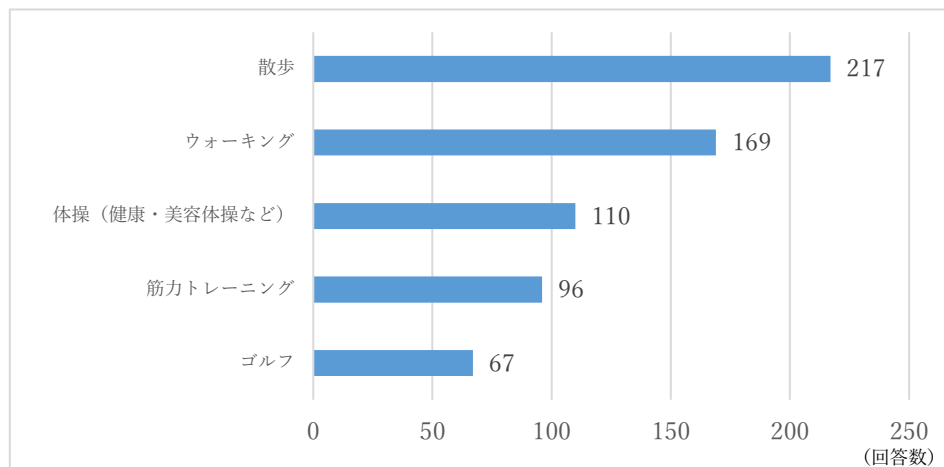
図表2-4 年代別スポーツ実施状況（令和元年度調査）



### ⑤実施している種目

現在実施している種目をみると、「散歩」が1位、「ウォーキング」が2位となっている。なお、上位5種目にあがっている種目は、平成26年度調査から変化なしとなっている。

図表2-5 実施している種目（上位5種目）  
（令和元年度調査）

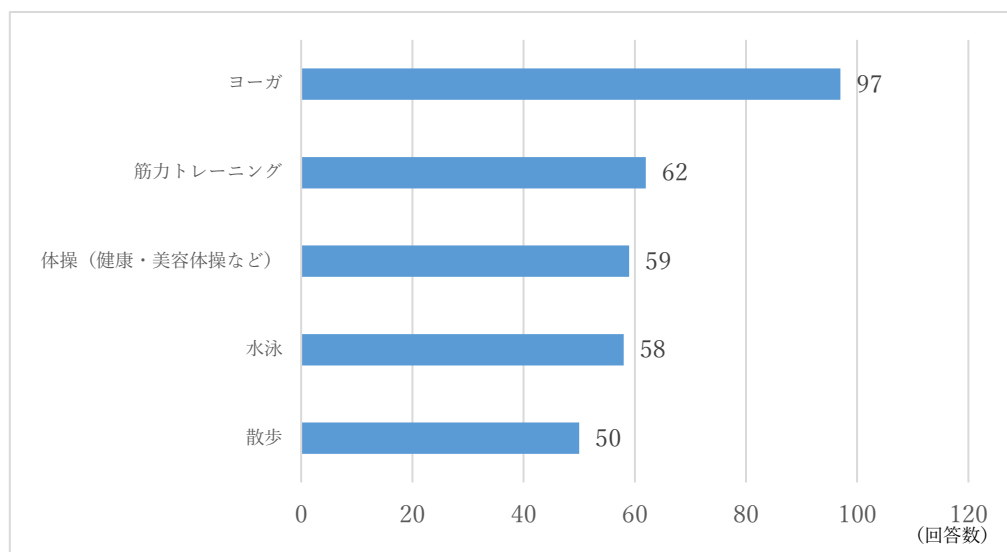


### ⑥実施したい種目

令和元年度調査において、初めて設定した質問項目となる。

結果としては、「ヨーガ」が1位、「筋力トレーニング」が2位となっており、用具や場所の確保が必要なく、個人もしくは少人数でも取り組める種目に興味を示されている傾向がうかがえる。

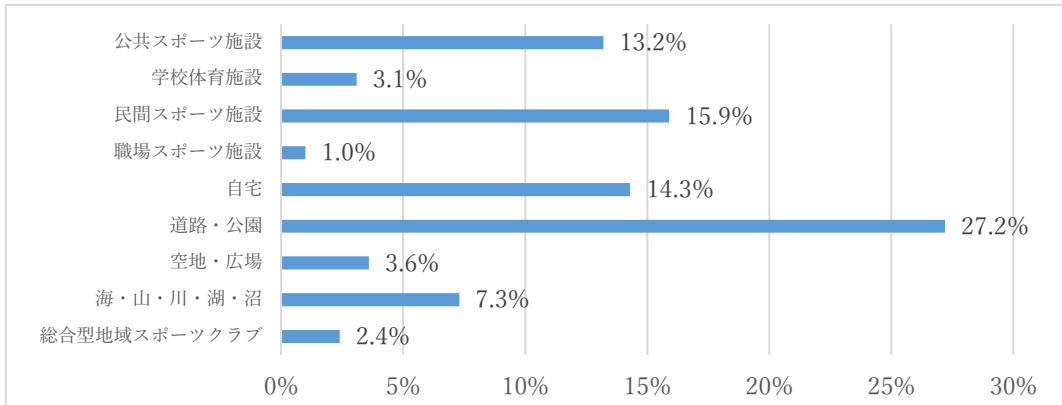
図表2-6 実施したい種目（上位5種目）  
（令和元年度調査）



⑦運動・スポーツ活動の場所について

市民の運動・スポーツ活動場所の1位は「道路・公園」で、2位は「民間スポーツ施設」、3位は「自宅」となっており、比較的身近な利用しやすい場所で運動やスポーツを行っている傾向がみられる。

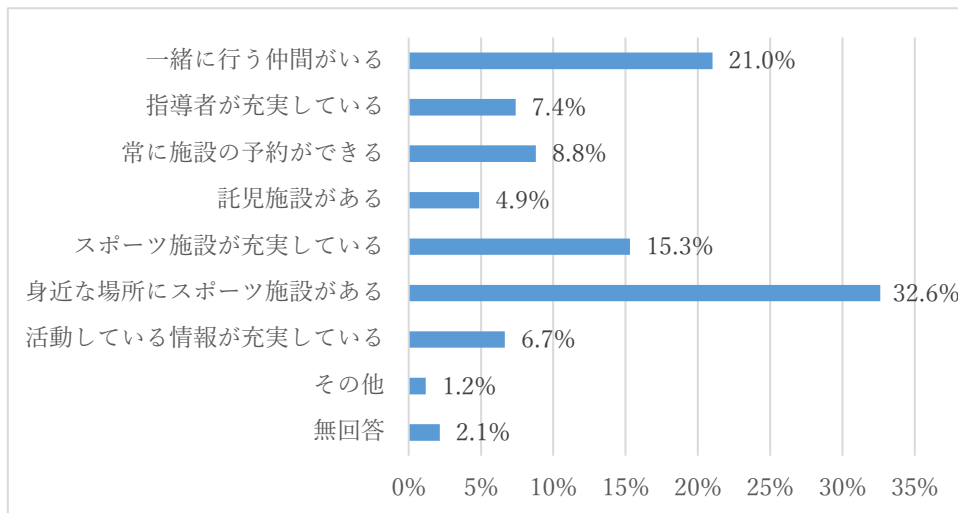
図表2-7 運動・スポーツ活動の場所（令和元年度調査）



⑧どのような環境があると運動やスポーツがしやすくなるか

スポーツがしやすい環境としては、身近に運動やスポーツができる施設や仲間がいることが好条件としてあげられている。

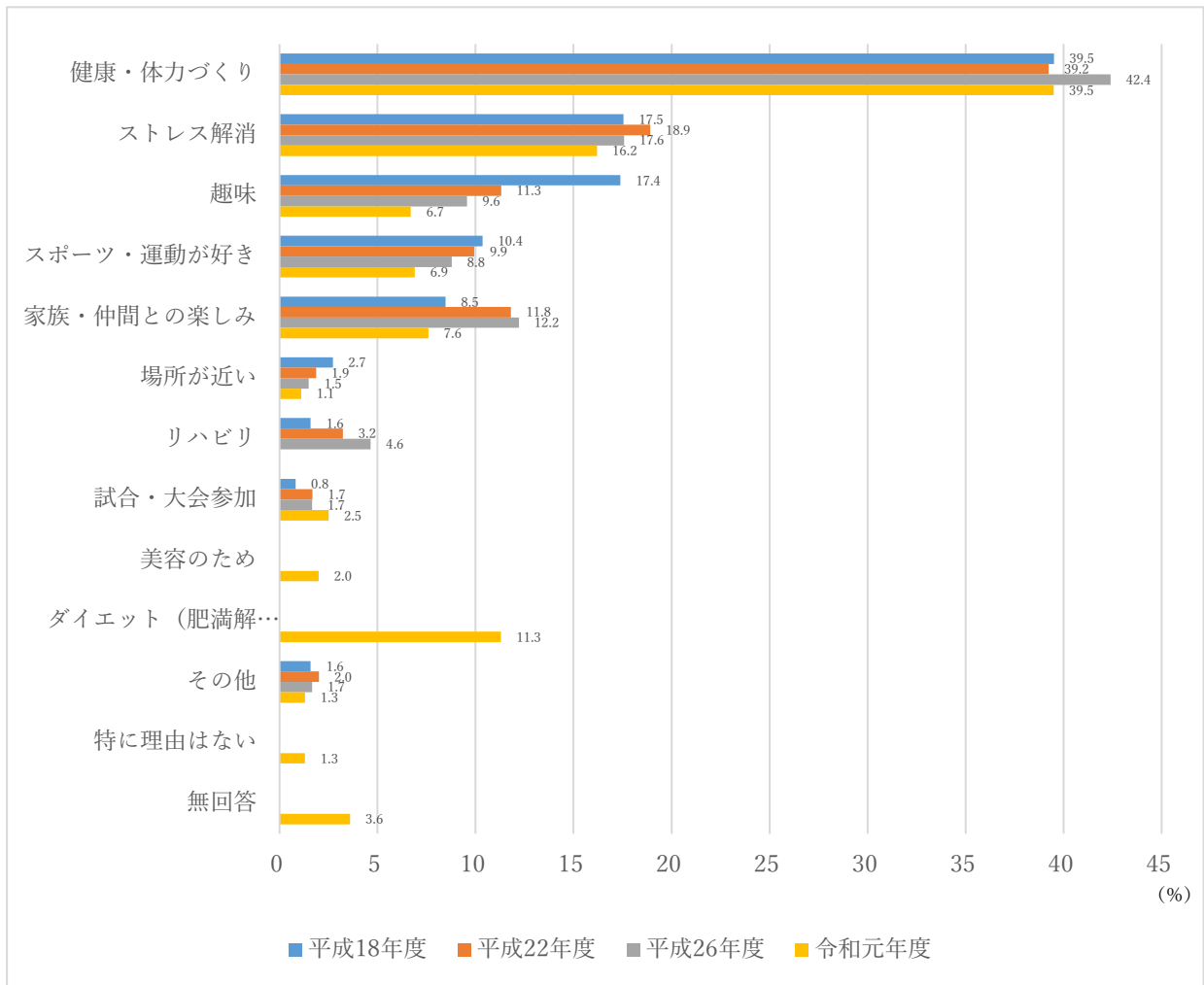
図表2-8 どのような環境があると運動やスポーツがしやすくなるか（令和元年度調査）



⑨ スポーツをする理由

スポーツをする理由として、「健康・体力づくり」が1位、「ストレス解消」が2位となり、次いで「ダイエット」「家族・仲間との楽しみ」が続くが、経年でも大きな変化はない結果となる。

図表2-9 スポーツをする理由  
(平成18, 22, 26, 令和元年度調査)



⑩ スポーツをする理由（年代別上位）

全ての年代で「健康・体力づくり」が1位となり，次いで「ストレス解消」「ダイエット」が上位にあがる傾向がみられる。

図表2-10 スポーツをする理由（年代別上位）  
（令和元年度調査）

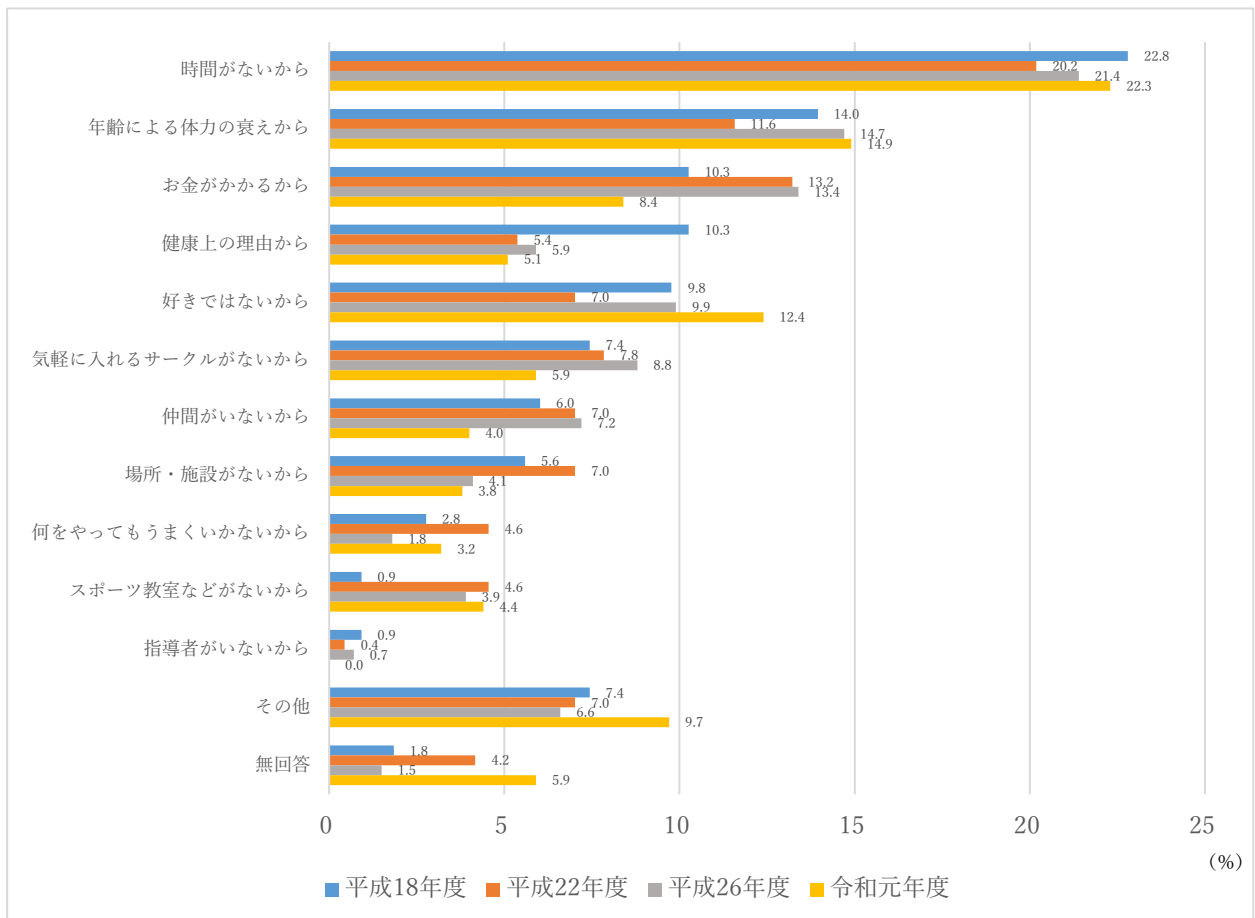
	第1位	第2位	第3位	第4位
20代	健康・体力づくり (23.2%)	ストレス解消 (19.5%)	体を動かすことが好きだから (14.6%)	ダイエット (肥満解消) のため (12.2%)
30代	健康・体力づくり(33.1%)	ストレス解消 (16.6%)	ダイエット (肥満解消) のため (14.8%)	家族や仲間との楽しみ (12.4%)
40代	健康・体力づくり(34.3%)	ストレス解消 (21.8%)	ダイエット (肥満解消) のため (13.7%)	家族や仲間との楽しみ (10.1%)
50代	健康・体力づくり(41.9%)	ストレス解消 (20.9%)	ダイエット (肥満解消) のため (15.7%)	レジャーとして楽しむ/美容のため (4.2%)
60代	健康・体力づくり(43.6%)	ストレス解消 (16.2%)	ダイエット (肥満解消) のため (9.4%)	レジャーとして楽しむ (8.5%)
70代	健康・体力づくり(48.5%)	ストレス解消/体を動かすことが好きだから (9.2%)	ダイエット (肥満解消) のため/家族や仲間とのコミュニケーション (6.9%)	無回答 (6.5%)
80代以上	健康・体力づくり(41.8%)	無回答 (16.4%)	体を動かすことが好きだから (12.7%)	その他 (9.1%)

⑪ スポーツをしない理由

スポーツをしない理由として、「時間がない」など仕事等によりスポーツ活動に取り組む余暇時間の確保が困難な傾向にある。

また、高齢者を中心に「年齢による体力の衰え」も大きな割合を占めている。さらに、「運動・スポーツが好きではない」という意見が増加していることも注視していく必要がある。

図表2-11 スポーツをしない理由  
(平成18, 22, 26, 令和元年度調査)





⑫ スポーツをしない理由（年代別上位）

年代別のスポーツをしない理由としても、「時間がない」ことが多くの世代で第1位となっている。また、高齢者の年代では「年齢による体力の衰え」が第1位となっている。さらに、「運動・スポーツが好きではない」という意見が特定の世代に偏るのではなく、全ての世代で上位に位置している。

図表2-12 スポーツをしない理由（年代別上位）  
（令和元年度調査）

	第1位	第2位	第3位	第4位
20代	運動・スポーツが好きではない (32.0%)	時間がない (20.0%)	何をやってもうまくならない/年をとった (12.0%)	仲間がいない/お金がかかる (8.0%)
30代	時間がない (32.8%)	運動・スポーツが好きではない (20.9%)	お金がかかる/その他 (10.4%)	無回答 (9.0%)
40代	時間がない (38.1%)	その他 (14.3%)	運動・スポーツが好きではない (10.5%)	お金がかかる (9.5%)
50代	時間がない (27.4%)	運動・スポーツが好きではない (16.1%)	場所（施設）がない (9.7%)	お金がかかる/気軽に入れるクラブ（サークル）がない (8.1%)
60代	時間がない (17.1%)	気軽に入れるクラブ（サークル）がない (14.6%)	お金がかかる (11.0%)	年をとった (9.8%)
70代	年をとった (35.4%)	体が弱い・参加したい行事（教室等）がない (9.4%)	運動・スポーツが好きではない (8.3%)	お金がかかる (7.3%)
80代以上	年をとった (48.6%)	その他 (25.7%)	場所（施設）がない/体が弱い/時間がない (5.7%)	仲間がいない/気軽に入れるクラブ（サークル）がない/運動・スポーツが好きでない (9.1%)

(2) 「する」スポーツの課題

① スポーツへの意欲と実施率について

まず、市民の「する」スポーツへの意欲については、調査年度ごとに漸減しており今後も注視が必要な状況となっている。

一方で、週1回以上のスポーツ実施率をみると、目標数値である65%には届いていないが、これまでの調査で最も高い47.3%となっている。

実施率を年代別にみていくと、これまでの調査と比較して20歳代の実施率が大幅に上昇した結果が出ている一方で、30歳代、40歳代が他の年代より低い水準にあることに変化はない。

こうしたことから、子育てや仕事など社会的に多忙となる中で、20歳代までに取り組んできたスポーツを継続的に実施できなくなっていることが想定され、特に、週3~4回以上の実施率が低下していることから、スポーツを習慣的に実施する時間の確保が困難となっていることが考えられる。

また、子育てが終わり、定年退職を迎えたことにより自由時間が多くなる60歳代、70歳代のスポーツ実施率や健康への意識が他の年代よりも高く、過去の調査からも変化していない。

## ②実施種目やスポーツがしやすい環境について

実施している種目及び実施したい種目どちらにおいても、用具や場所の確保が必要なく、個人や少人数で気軽に手軽に取り組める種目が上位にあがっている。

また、運動・スポーツ活動がしやすい環境としては「道路・公園」や「自宅」など設備が揃っていなくても、手軽に利用できる場所が好まれるほか、一緒に取り組むことが出来る仲間がいることも求められている。

こうした傾向は、現在スポーツに取り組んでいる市民の方は、団体活動よりも各個人が自分の都合にあったスケジュールや取り組み方により実施でき、かつ、手軽にできるスポーツや運動を優先して取り組んでいると考えられる。

また、スポーツに取り組むことを通じて周囲に知人や仲間が出来ることは、健康づくりという面だけでなく、地域活動への参画という活動の広がりにもつながっていくことが期待できる。

## ③スポーツをする理由／しない理由について

スポーツをする理由として、全ての年代で「健康・体力づくり」「ストレス解消」が上位に入っていることから、自身の心身の健康維持がスポーツをする動機となっている傾向がみられる。

一方、30歳代、40歳代では「家族や仲間との楽しみ」があげられており、自身のことだけでなく家族と時間を共有することができることをスポーツをするメリットとして考えていることがうかがえる。

次にスポーツをしない理由としては、過去の調査と同様に20歳代から60歳代では「時間がない」ことが多くあげられ、70歳代以降では「年をとった」ことがあげられている。また、過去の調査と比較すると「運動・スポーツが好きではない」という意見が増加していることはスポーツへの意欲の低下と関連していることが考えられる。

#### ④まとめ

「する」スポーツの課題ポイントとしては、市民全体のスポーツへの意欲が低下している一方で、個人や少人数で気軽に取り組める運動やスポーツへの関心が強い傾向にあることだと考えている。

そのため、まずは「健康・体力づくり」など自身の健康増進を見据えた運動やスポーツについて、きっかけづくりや取り組み方法の啓発、サポート体制の充実を中心とした施策を継続的に推進し、スポーツに関わる市民の裾野を拡大していくことが必要と考えている。

また、地域でスポーツ活動に取り組む市民が増えていくことは、市民交流の活発化にもつながり、地域コミュニティの形成や活性化に携わることが出来る地域の担い手づくりを促進する面での効果も期待できる。

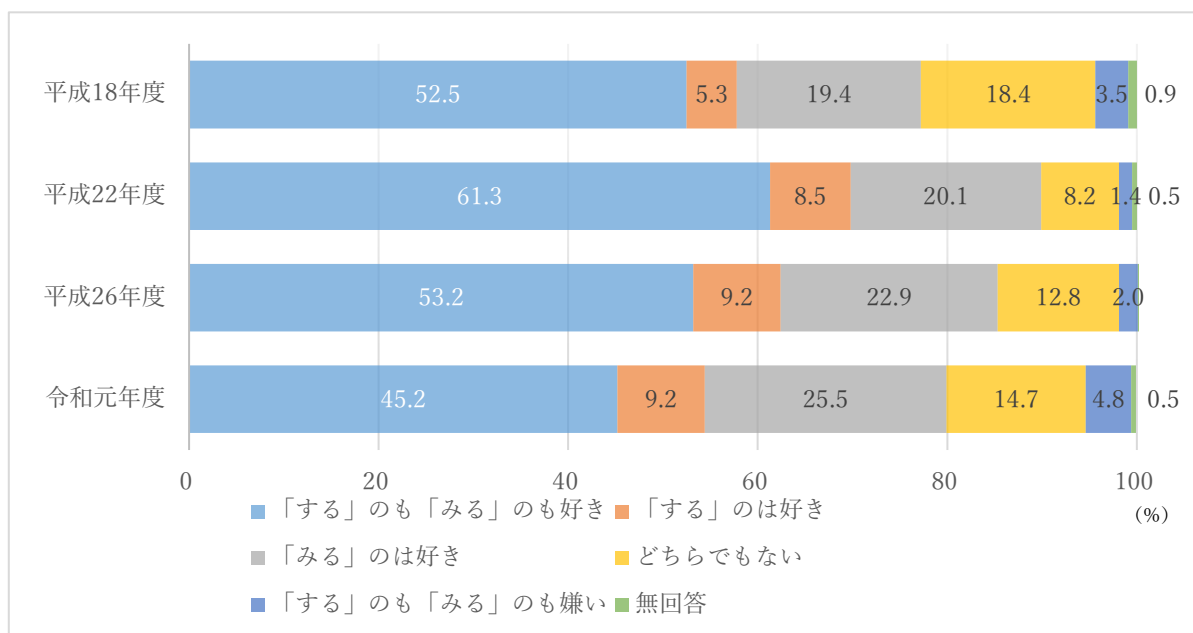
### 3 「みる」スポーツの現状と課題

#### (1) 「みる」スポーツの現状

##### ① スポーツへの関心

スポーツへの意欲と同様に、「する」こと「みる」ことを合わせたスポーツへの関心は平成22年度の調査以降、低下傾向を示している。一方、「する」と「みる」を個別にみていくと、どちらも増加傾向を示しており、今後も注視していく必要がある。

図表3-1 スポーツへの関心  
(平成18, 22, 26, 令和元年度調査)

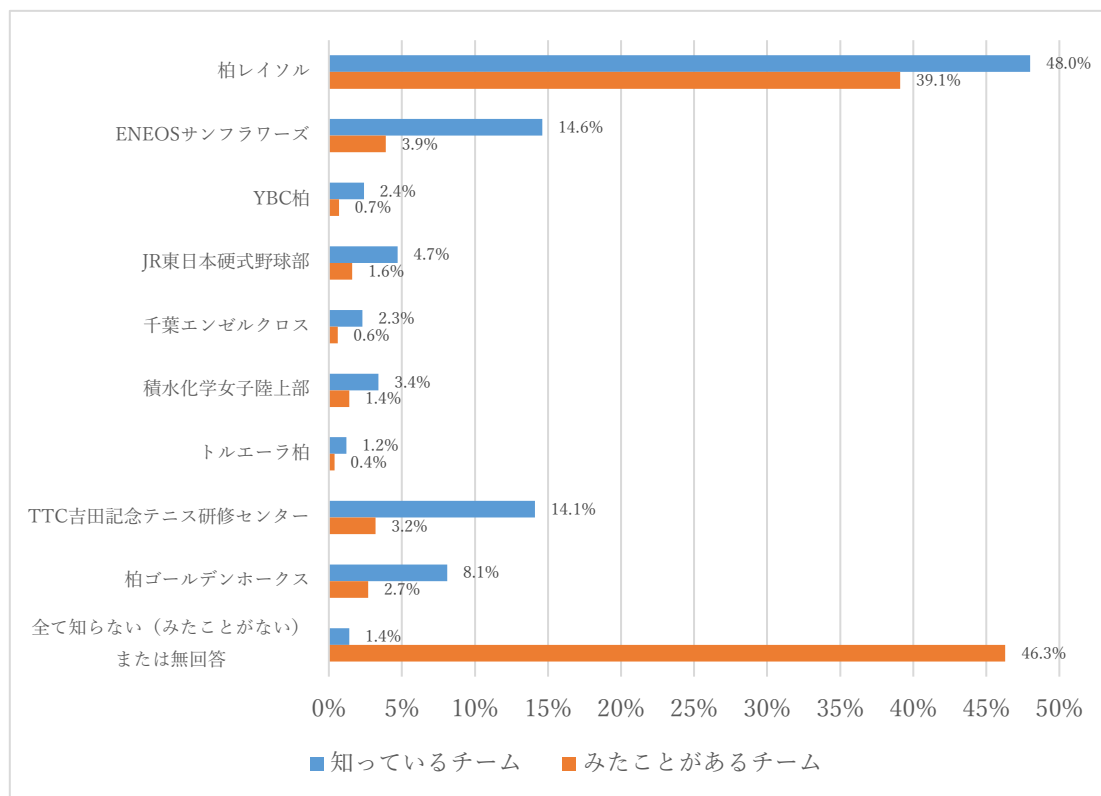


##### ② 知っている/みたことがあるホームタウンチーム

ホームタウンチームの認知度においては、「柏レイソル」が最も高く、次いで「ENEOSサンフラワーズ」「TTC」が続く結果となった。

観戦実績においては、認知度と同様に「柏レイソル」が最も高いが、他のホームタウンチームとは開催規模や回数が違うため、妥当な結果であると考えている。一方で、みたことがない（無回答含む）と回答した方が50%弱であったことから、トップレベルの競技スポーツを直に観戦することの楽しさなどを啓発していくことが必要になると考えている。

図表3-2 知っている/みたことがあるホームタウンチーム  
(令和元年度調査)



## (2) 「みる」スポーツの課題

柏市における「みる」スポーツは、これまでホームタウンチームを中心に気軽に触れやすいという面から、市民が運動やスポーツを取り組み始めるきっかけ作りとして大きな役割を果たしてきている。

また、本市では令和元年度よりスポーツ課を教育委員会から地域づくり推進部に移管し、プロアマの区別なくスポーツを活かしたまちづくりや地域コミュニティの活性化に向けた中心的な存在として活用が進んでいくようスポーツ団体と連携を図っていくことが求められている。こうした目的に沿って、引き続き、スポーツ団体と協力しながら、「みる」だけでなく、実践して楽しめるスポーツイベントの開催を中心に推進していくこととする。

さらに、本市においては多くのホームタウンチームがあるなかで、認知度は「柏レイソル」が突出して高い状況にあるが、他のホームタウンチームの認知度を上げていくことも、スポーツへの関心とスポーツ実施率の向上につながるものと考えている。

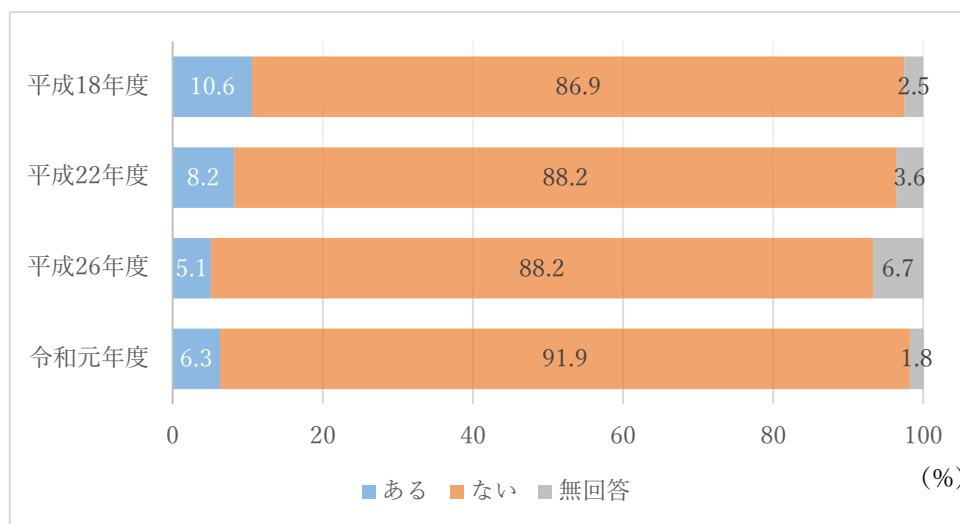
#### 4 「ささえる」スポーツの現状と課題

##### (1) 「ささえる」スポーツの現状

###### ① スポーツボランティアの経験について

令和元年度調査においてスポーツボランティアの経験があると回答した方は6.3%と、依然として低い割合で推移している。

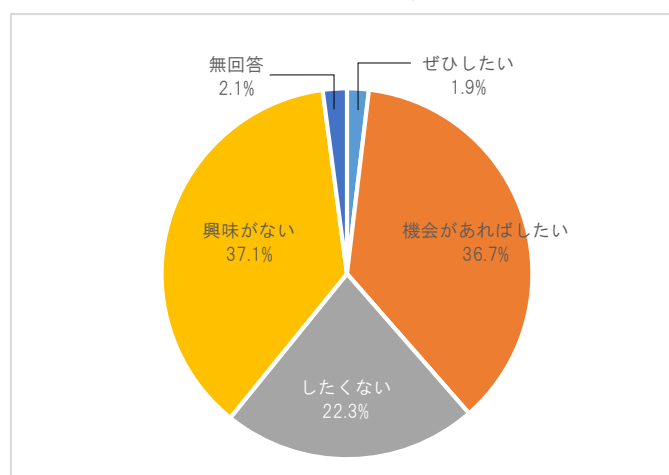
図表4-1 スポーツボランティアの経験  
(平成18, 22, 26, 令和元年度調査)



###### ② スポーツボランティアへの参加意欲について

スポーツボランティアへの参加意欲については、約6割の方が「したくない」又は「興味がない」という消極的な姿勢を示している。

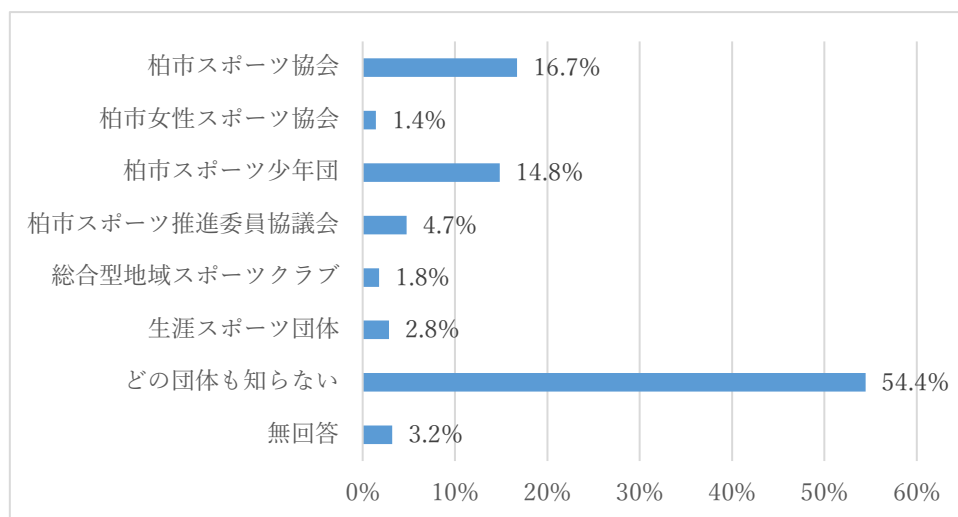
図表4-2 スポーツボランティアへの参加意欲  
(令和元年度調査)



### ③知っているスポーツ団体について

アマチュアスポーツ活動をとりまとめている各スポーツ団体の認知度としては、「柏市スポーツ協会」や「柏市スポーツ少年団」が比較的知られている回答を得ている一方、「どの団体も知らない」という回答が半数以上に達しており、周知の面で苦慮している各団体の現状を表している結果となっている。

図表4-3 知っているスポーツ団体（令和元年度調査）



## (2) 「ささえる」スポーツの課題

### ①スポーツボランティアについて

過去の調査と同様にスポーツボランティアに携わる人の少なさは依然として課題としてあげられる。

また、スポーツボランティアへの参加意欲も決して高いという結果ではないため、スポーツボランティアの活用を前提とした施策推進のあり方について、今後の方向性を再検討する必要がある。

### ②スポーツ団体について

スポーツ団体を取りまとめている各組織の認知度がそれほど高くはないという調査結果のほか、各組織単独では活動者やPR機会の減少、資金面の不安など運営に苦慮している現状が見受けられている。

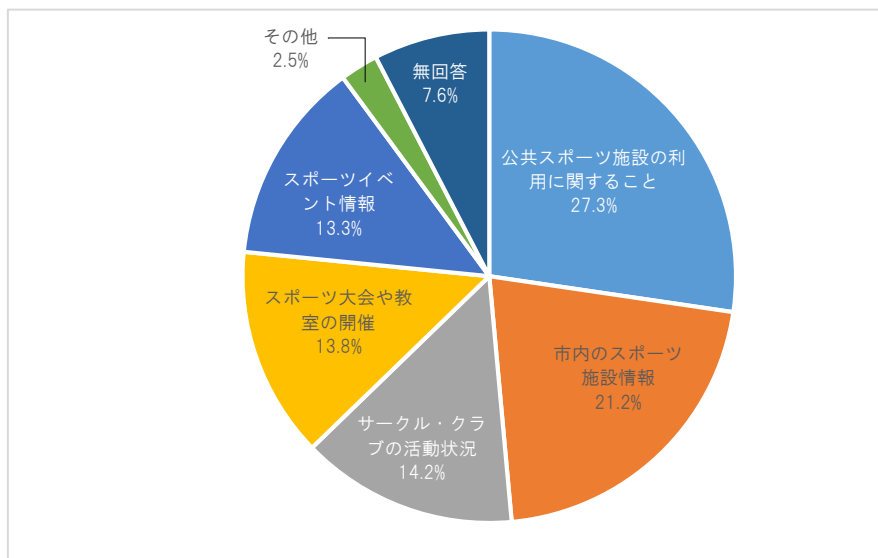
こうした現状を受け、団体間の連携を模索し、より効果的に市民のスポーツに取り組む機会の創出や情報発信の手法を検討していく必要があると考えている。

## 5 スポーツ政策の推進に関する事項

### (1) 市民が知りたい柏市のスポーツ情報について

令和元年度調査では、市民が知りたい情報の1位は「公共スポーツ施設の利用に関すること」で、2位は「市内のスポーツ施設情報」、3位は「サークル・クラブの活動状況」という結果であった。

図表5-1 市民が知りたい柏市のスポーツ情報（令和元年度調査）

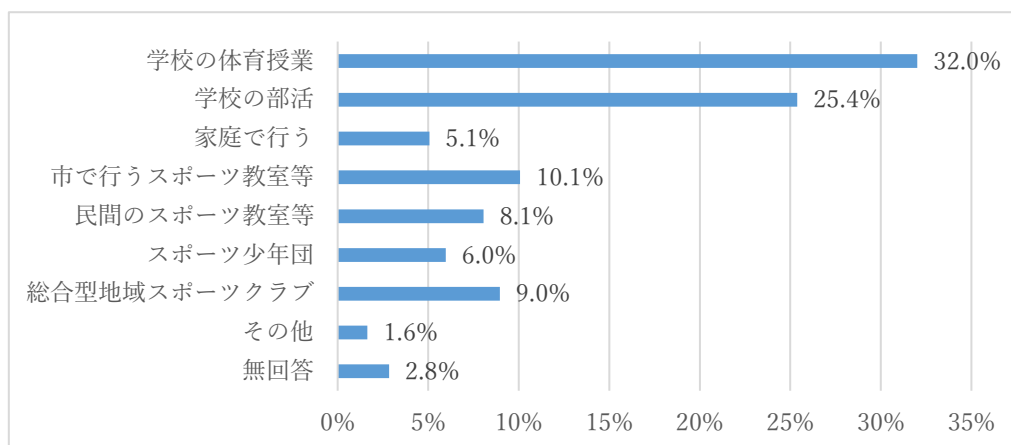


### (2) 子どもの体力づくりに必要なことについて

子どもの体力づくりについては、地域でのスポーツ活動に携わることよりも学校における体育授業や部活動などでの活動が必要だと考えられている結果となった。

学校教育活動が多様化するなかで、子どものスポーツ活動を地域のスポーツ団体へとつなげられるかが今後の課題となる。

図表5-2 子どもの体力づくりに必要なこと（令和元年度調査）



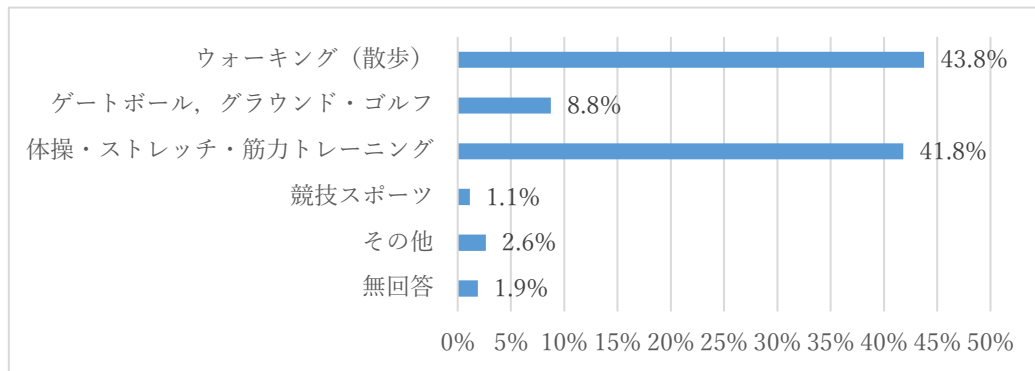


(3) 高齢化社会に必要なまたはあっているスポーツについて

高齢化社会に必要なまたはあっているスポーツとしては、「ウォーキング（散歩）」及び「体操・ストレッチ・筋力トレーニング」が意見を集めている。

「する」スポーツで記載したように個人や少人数で気軽に取り組める種目が必要とされることがうかがえる結果となっている。

図表5-3 高齢化社会に必要なまたはあっているスポーツは何か  
(令和元年度調査)

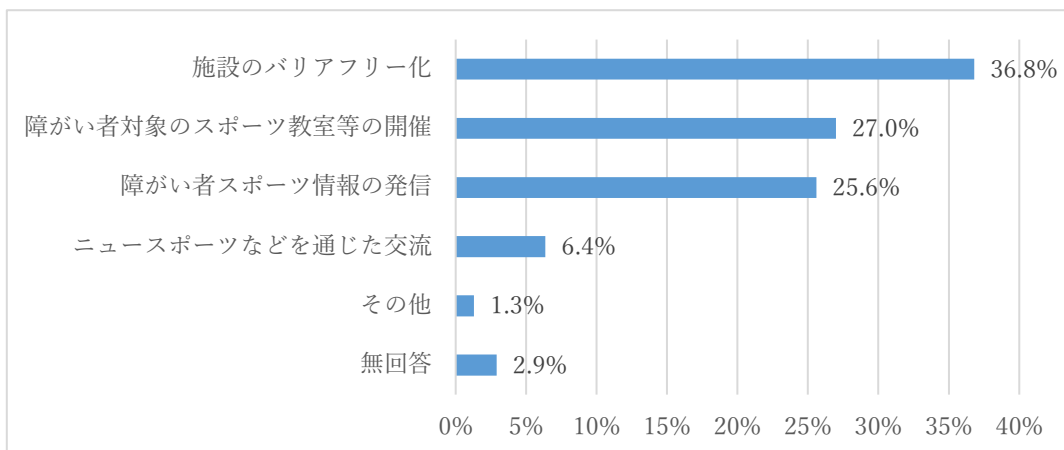


(4) 障がい者スポーツに必要なことについて

障がい者スポーツの推進に向けては、「施設のバリアフリー化」というハード面の充実が最も必要性が高く、以下にソフト面での充実が続く結果となっている。

障がい者スポーツは、障がいの有無に関わらずスポーツに親しめる社会の実現やスポーツ人口の裾野拡大にもつながる事業である。このことから、本市では、引き続き、関係機関や団体との連携を図り、障がいのある方がスポーツ活動に参加できる環境の充実を進めていくことを考えている。

図表5-4 障がい者スポーツに必要なこと（令和元年度調査）



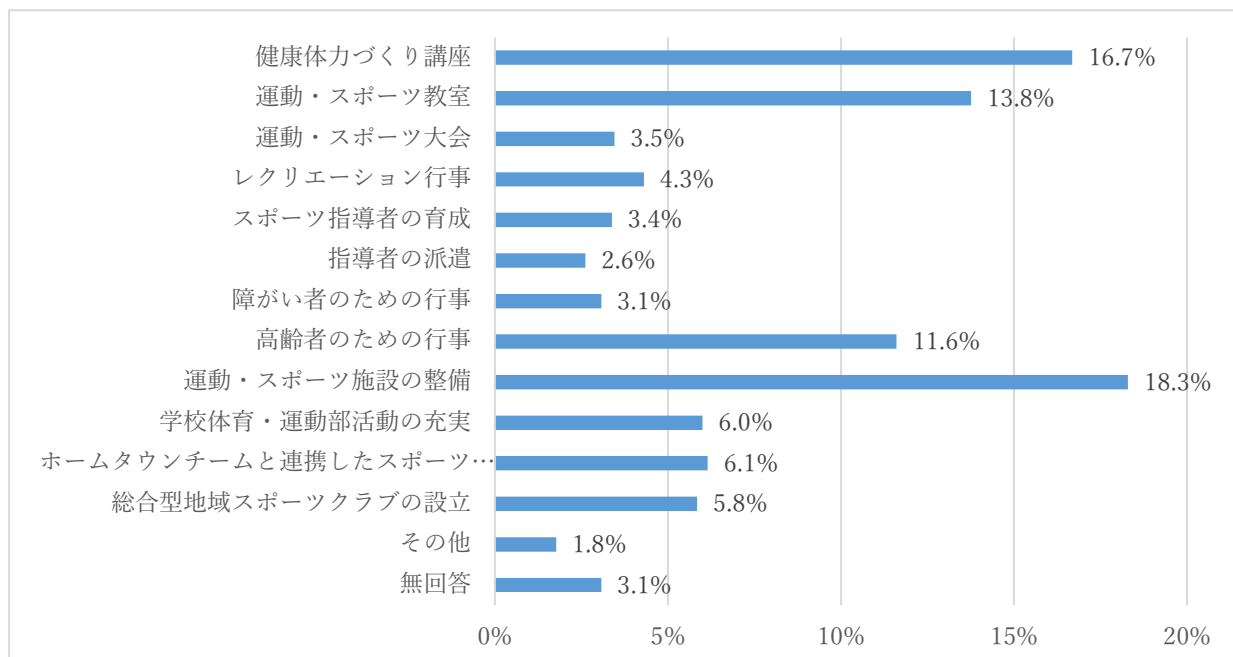
(5) 柏市に力を入れてほしい事業について

柏市に力を入れてほしい事業としては、「運動・スポーツ施設の整備」が最も多く、次いで「健康体力づくり講座」「運動・スポーツ教室」が続く結果となっている。

施設の整備については、柏市公共施設等総合管理計画に基づき、施設の老朽化や利用者減少が進む中での統廃合や集約の必要性が検討されているため、現状としては、イベントや講座などのソフト面を主体にスポーツ推進を継続していくことを考えている。

また、存続させる施設については、計画的に改修や修繕を実施していくことや指定管理者制度の活用により、老朽化への対応や利便性の向上を図っていくこととしている。

図表5-5 柏市に力を入れてほしい事業（令和元年度調査）

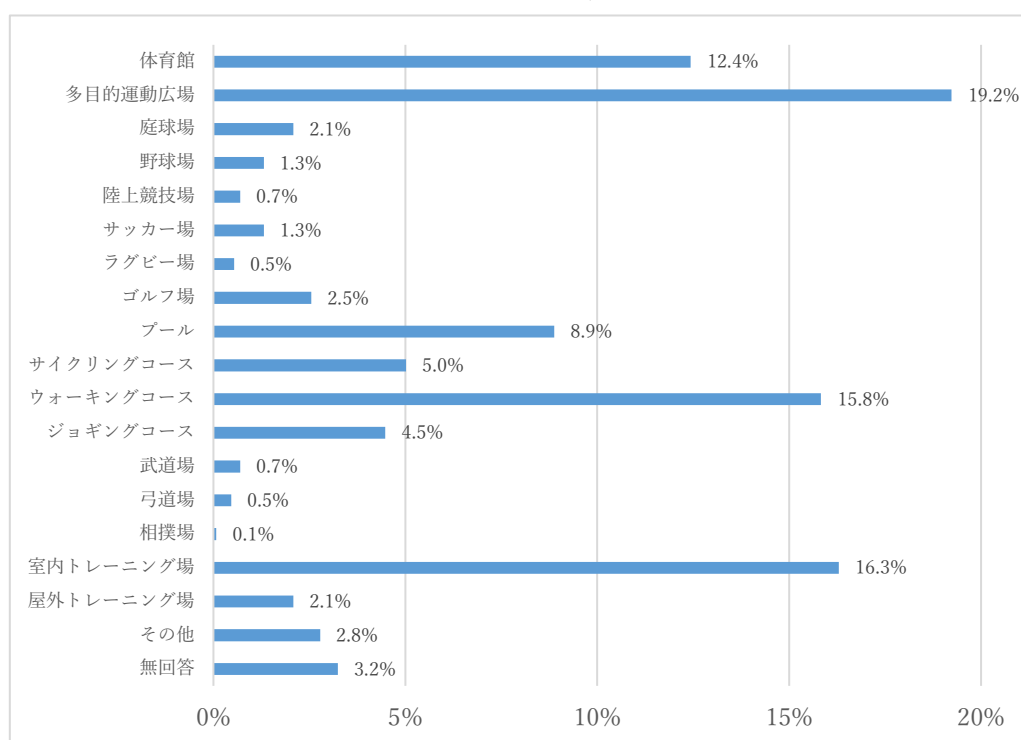


(6) 今後のスポーツ施設の充実について

今後、充実が望まれるスポーツ施設としては、「多目的運動広場」が最も多く、次いで「室内トレーニング場」「ウォーキングコース」が続く結果となっている。

施設の充実については、(4)でも記載したとおり存続させる施設の計画的な改修や修繕を優先的に実施していくが、その検討の中で、利用者の利便性の向上に向けた設備の充実を進めていくことを考えている。

図表5-6 今後どのようなスポーツ施設の充実を望むか  
(令和元年度調査)



## 6 ラグビーニュージーランド代表（オールブラックス）の柏キャンプに関する事項

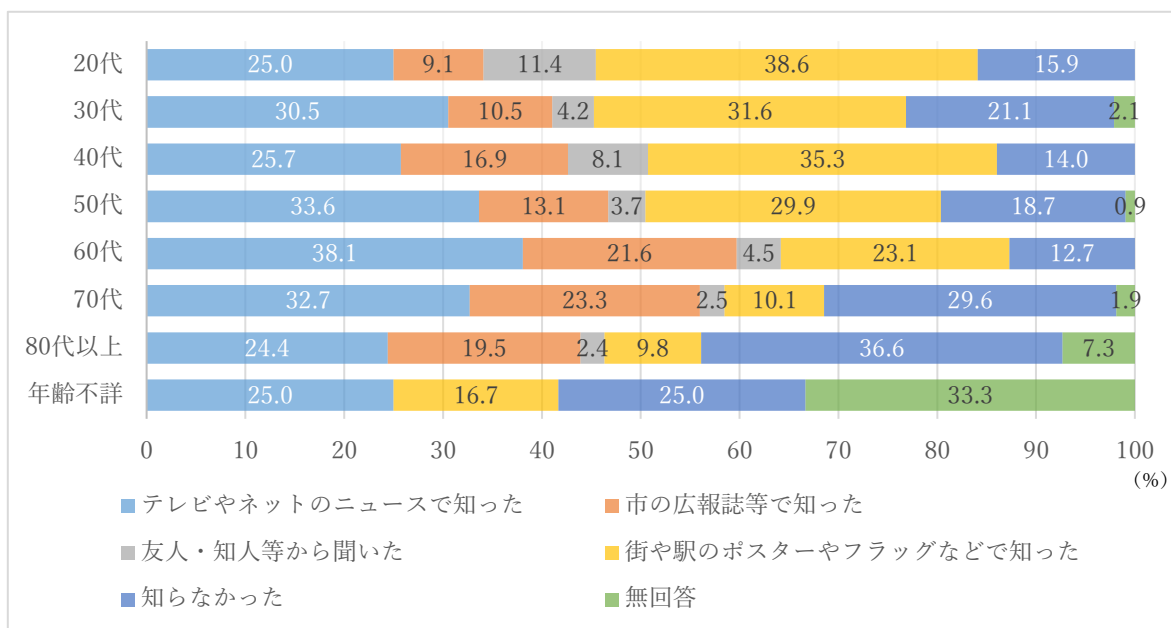
### (1) 柏市で事前キャンプ行うことを知った媒体について

全ての世代で「テレビやネットで知った」割合が比較的高く、既存メディアによる周知効果が表れている。

年代層ごとに見ていくと、20~50歳代の多くが「街や駅のポスターやフラッグで知った」をあげており、若年層をメインターゲットとして人が集まりやすい場所を中心に局所的に展開した広告の効果があつたことと考えている。

一方で、予算等の都合により周知の方法を限定せざるを得なかったことから、高齢者世代では「知らなかった」という割合が高くなる結果となっている。

図表6-1 柏市で事前キャンプを行うことを何で知ったか  
(令和元年度調査)

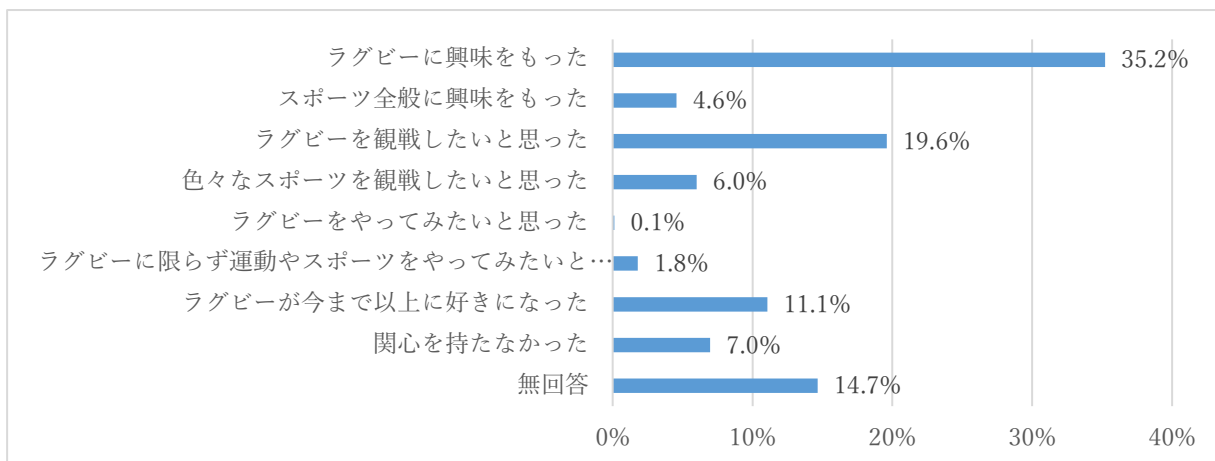


### (2) オールブラックスの事前キャンプを通じたラグビーやスポーツへの関心について

ラグビーのトップチームが本市で事前キャンプを実施したことでラグビーへの関心は高まることは予想の範疇である。

一方で、ラグビーのみの関心に留まり、スポーツ全般の関心に波及しなかったことは、今後のトップチームを活用したスポーツの啓発手法として課題が残る結果であると考えている。

図表6-2 ラグビーやスポーツへの関心について（令和元年度調査）



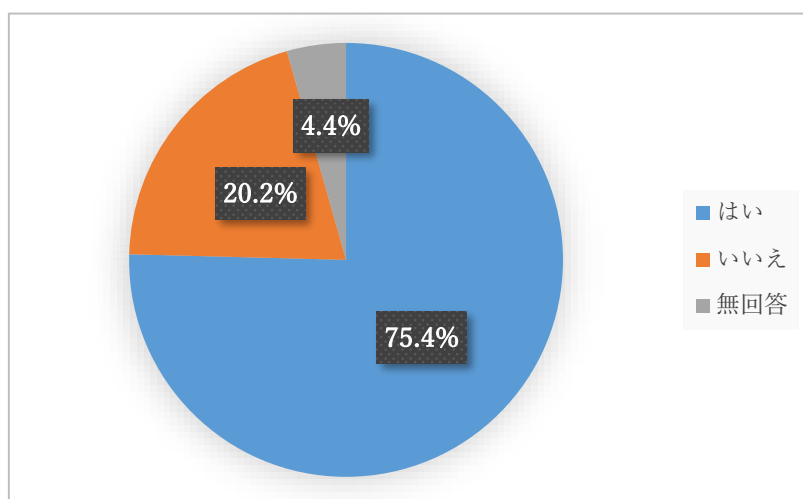
(3) 今後もオールブラックスのようなトップチームの招致は必要と思うか

世界のトップチームを間近で体感できることは、その競技への関心の向上に繋がることは(2)の結果でも表れている。

課題点としては、トップチームが本市に残していった「レガシー」を将来に引継ぎながら、特定の競技だけに留まらず、スポーツ全般への関心の向上とスポーツ活動への参加に繋げていくかという点にある。

今回の調査結果から、トップチームの招致は希望も多く、時機に沿った対応が必要であるが、同時に、スポーツ全般に波及できる啓発手法を検討していく必要もある。

図表6-3 今後もトップチームの招致は必要と思うか（令和元年度調査）



## 7 自由意見記入欄について

自由意見記入欄への回答数は155件あり、意見の概要は以下のとおりとなる。なお、同一回答者から複数の意見があった場合には、複数項目に計上をしている。

図表7-1 自由意見の概要

意見の概要	意見数
スポーツに関する講座や教室の充実	20
スポーツ・運動に係る情報発信の強化	9
子どもの運動機会の確保	15
高齢者の運動機会の確保	11
障がい者スポーツの推進	2
ニュースポーツの推進	2
スポーツ指導者の派遣や養成	4
ホームタウンチームの活用	1
国際スポーツ大会のキャンプ地への立候補	1
スポーツ・運動をする施設（体育館，サイクリングコースなど）や環境（託児所，休憩所など）の整備	25
市営スポーツ施設の改善・充実	16
市営プール施設の充実	15
公園・広場等の整備	9
道路・交通環境の改善	8
学校体育施設開放事業への意見	2
市営スポーツ施設利用料の減額要望	4
民間スポーツ施設利用への補助制度の新設	3
市営スポーツ施設の予約がとりにくい	6
個人的な理由でスポーツや運動を行えていない	4
アンケートの内容や設問に対する意見	6
スポーツより他の分野に力を入れて欲しい	4
その他	14